



Red Hat Process Automation Manager 7.9

Red Hat Process Automation Manager 7.9 リ
リースノート

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書は、Red Hat Process Automation Manager 7.9 のリリースノートです。

目次

前書き	4
多様性を受け入れるオープンソースの強化	5
第1章 製品の概要	6
第2章 新機能	7
2.1. BUSINESS CENTRAL	7
2.2. ENTANDO APPBUILDER	7
2.3. プロセスデザイナー	7
2.4. デシジョンエンジン	8
2.5. プロセスエンジン	8
2.6. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER	9
2.7. SPRING BOOT	9
2.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	10
第3章 サポートおよび互換性	12
3.1. FIREFOX 78 ESR のサポート	12
3.2. RED HAT DATA GRID 7.3 のサポート	12
3.3. AMQ STREAMS 1.5 のサポート	12
3.4. RED HAT AMQ 7.7 のサポート	12
3.5. RED HAT JBOSS EAP での高可用性オーサリング (オンプレミス) のサポート	12
3.6. RED HAT JBOSS WEB SERVER のサポート	12
3.7. RED HAT CODEREADY STUDIO の統合	12
3.8. RED HAT FUSE の統合	12
第4章 非推奨コンポーネント	14
4.1. レガシーのテストシナリオツール	14
4.2. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3.X のサポート	14
4.3. レガシーのプロセスデザイナー	14
第5章 テクノロジープレビュー	15
5.1. ケースモデラー	15
5.2. PREDICTION SERVICE API	15
5.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X への高可用性のオーサリング環境のデプロイ	15
5.4. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード	15
第6章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.0 で既知の問題	17
6.1. BUSINESS CENTRAL	17
6.2. フォームモデラー	18
6.3. プロセスデザイナー	19
6.4. プロセスエンジン	23
6.5. DMN デザイナー	24
6.6. デシジョンエンジン	27
6.7. 高可用性 BUSINESS CENTRAL (オンプレミス)	27
第7章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.0 で修正された問題	29
7.1. BUSINESS CENTRAL	29
7.2. プロセスデザイナー	30
7.3. プロセスエンジン	30
7.4. デシジョンエンジン	30
7.5. KIE SERVER	31
7.6. インストーラー	31

7.7. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	31
第8章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.1で既知の問題	32
8.1. BUSINESS CENTRAL	32
第9章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.1で修正された問題	33
9.1. BUSINESS CENTRAL	33
9.2. KIE SERVER	33
9.3. プロセスエンジン	34
9.4. プロセスデザイナー	34
9.5. デシジョンエンジン	34
9.6. DMN デザイナー	34
9.7. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER	34
9.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	35
付録A バージョン情報	36
付録B お問い合わせ先	37

前書き

本書では、Red Hat Process Automation Manager 7.9 の新機能、テクノロジープレビュー機能、既知の問題、および修正された問題について説明します。

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みにより、これらの変更は今後の複数のリリースに対して段階的に実施されます。詳細は、[弊社の CTO である Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。

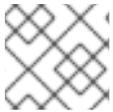
第1章 製品の概要

Red Hat Process Automation Manager は、ビジネスプロセス管理 (BPM)、ケース管理、ビジネスルール管理、リソースプランニングを組み合わせたオープンソースのビジネス自動化プラットフォームです。これにより、ビジネスおよび IT ユーザーは、ビジネスプロセス、ケース、およびビジネスルールの作成、管理、検証、およびデプロイメントを実現できます。

Red Hat Process Automation Manager は、すべてのリソースを保存する集中リポジトリを使用します。これにより、ビジネス全体で一貫性や透明性を維持し、監査を行えます。ビジネスユーザーは、IT 担当者のサポートを受けることなくビジネスロジックおよびビジネスプロセスを編集できます。

Red Hat Process Automation Manager 7.9 では安定性が増し、問題がいくつか修正され、新機能が加わっています。

Red Hat Process Automation Manager は Red Hat OpenShift Container Platform で完全にサポートされており、各種プラットフォームにインストールできます。



注記

Red Hat Process Automation Manager は、Java 8 以降が必要になります。

Red Hat Process Automation Manager のサポートポリシーの詳細は、[Release maintenance plan for Red Hat Decision Manager 7.x and Red Hat Process Automation Manager 7.x](#) を参照してください。

第2章 新機能

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.9 の新機能について説明します。

2.1. BUSINESS CENTRAL

2.1.1. DMN モデルでの複数ダイアグラムのサポート

複雑な DMN モデルについては、Business Central で DMN デザイナーを使用して、DMN デシジョンモデルに関する全体的な意識決定要件グラフ (DRG) を設定する複数の DMN の意思決定要件ダイアグラム (DRD) を作成できるようになりました。この改善により、モデルを小規模なネストされた DRD に分割することで、多くの意思決定要件で DMN デシジョンモデルをより適切に整理できるようになりました。

複数のダイアグラムで DMN モデルを作成する方法に関する詳細は、[DMN モデルを使用したデシジョンサービスの作成](#) を参照してください。

2.1.2. Dashbuilder runtime

Dashbuilder ランタイムは新しいアドオンスタンドアロン Web アプリケーションで、**WAR** として配信され、Red Hat JBoss EAP でダッシュボードを実行します。dashbuilder ランタイムにアクセスできる場合は、Business Central で作成したダッシュボードを利用できます。以下は、dashbuilder ランタイム更新の概要になります。

- データセットとページを使用してダッシュボードを作成すると、**カスタムエクスポート** を使用して Business Central からこれらのダッシュボードをエクスポートできます。
- dashbuilder ランタイムの Business Central からエクスポートしたダッシュボードのインポート、アクセス、および実行が可能です。
- Dashbuilder ランタイムは KIE Server REST API にアクセスし、インポートした KIE Server データセットからクエリーを実行します。
- Dashbuilder ランタイムは、Web アプリケーションの dashbuilder ランタイムのインスタンスから特定のダッシュボードを設定できる埋め込み機能を提供します。
- Dashbuilder ランタイムでは、1つの dashbuilder ランタイムインスタンスに複数のダッシュボードをインポートできます。
- ダッシュボードページの一部となる外部コンポーネントを作成して追加することができます。

2.2. ENTANDO APPBUILDER

Entando AppBuilder が Red Hat Process Automation Manager 7.9 から公式に削除されるようになりました。Red Hat Process Automation Manager では、Entando AppBuilder のエンタイトルメントが同梱されなくなりました。機能の資料やドキュメントは、7.9 リリースでは提供されません。

2.3. プロセスデザイナー

2.3.1. プロセスデザイナーの更新

以下は、プロセスデザイナーの更新についてまとめたものです。

- プロセスダイアグラムにデータオブジェクトを追加する機能
- プロセスダイアグラムに Kafka ワークアイテムを追加してイベントを Kafka トピックに送信する機能
- 新しいインラインテキストエディターを使用して、任意のダイアグラムノードをダブルクリックして名前を編集する機能
- Java、JavaScript、および MVEL でスクリプトを書き込む際に強調表示された構文を表示する機能
- `jbpm.enable.multi.con` システムプロパティを使用したタスクまたはイベントに複数の接続を使用する機能

詳細は、[Business Central でのビジネスプロセスの作成](#) を参照してください。

2.3.2. リンク中間イベントのサポート

プロセスデザイナーでリンクイベントを使用して、プロセスの別の部分を接続できるようになりました。新しいリンクイベントには、中間出力およびキャッチリンクイベントが含まれます。詳細は、[Business Central でのビジネスプロセスの作成](#) を参照してください。

2.3.3. タスク通知でメールを設定する機能

メールアドレスを直接追加して、タスクの通知メールを送信できるようになりました。詳細は、[Business Central でのビジネスプロセスの作成](#) を参照してください。

2.4. デシジョンエンジン

2.4.1. デシジョンエンジンにおけるデスコープ特性

この特性機能と、その特定の実装コードは、**drools-traits** という名前の個別のモジュールに移動します。**drools-traits** モジュールを Maven にインポートすると、その特性を使用できます。既存の実装は実行可能なルールモデルではサポートされません。

2.4.2. デシジョンエンジンのパフォーマンス分析に使用する新しい **drools-metric** モジュール

drools-metric という名前の新しいモジュールが追加され、デシジョンエンジンのパフォーマンス分析が容易になります。

詳細は、[DRL ルールを使用したデシジョンサービスの作成](#) を参照してください。

2.5. プロセスエンジン

2.5.1. プロセスの Fluent API のサポート

プロセスの Fluent API を使用してビジネスプロセスを作成できるようになりました。以下は、Fluent API を使用してビジネスプロセスを作成するための基本的な例です。

```
ProcessBuilderFactory factory = ProcessBuilderFactories.get();
Process process = factory
    // start process definition
```

```
.processBuilder(processId)
// package and name
.packageName(packageName)
.name(processName)
.setMetadata("pepe", true)
// start node
.startNode(1).name("Start").done()
// script node in Java language that prints "action"
.actionNode(2).name("Action")
.action(Dialect.JAVA,
    "System.out.println(\"Action\");").done()
// end node
.endNode(3).name("End").done()
// connections
.connection(1, 2)
.connection(2, 3)
.build();
```

プロセスの Fluent API についての詳細は、[KIE API を使用した Red Hat Process Automation Manager との対話](#) を参照してください。

2.5.2. 強化された検索機能

Red Hat Process Automation Manager 7.9 では、タスク、プロセスインスタンス、ケースの柔軟な検索条件など、検索機能が強化されています。詳細は、[ケース管理でのケースの設計及び構築](#) を参照してください。

2.6. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER

2.6.1. Spring boot との Red Hat Business Optimizer の使用

[Red Hat Business Optimizer Spring Boot を使用した授業の時間割の作成](#)の例に従い、授業の時間割を作成します。

2.6.2. 従業員勤務表ローテーションパターンの再設計

従業員名簿ローテーションウィンドウのローテーションパターンが、使いやすいように再設計されました。詳細は、[IDE を使用した Red Hat Business Optimizer 向け従業員勤務表スターターアプリケーションの実行および変更](#) を参照してください。

2.7. SPRING BOOT

2.7.1. JMS メッセージブローカーで監査データの複製

KIE Server 監査データを Java Message Service (JMS) メッセージブローカー (ActiveMQ、Artemis など) に複製してから、外部データベーススキーマにデータをダンプし、アプリケーションスキーマから監査データを削除すると、Spring Boot アプリケーションのパフォーマンスを向上できます。

詳細は、[Springboot での Red Hat Process Automation Manager ビジネスアプリケーションの作成](#) を参照してください。

2.7.2. bytea 列タイプのサポート

`org.kie.persistence.postgresql.useBytea` プロパティの値を `true` に設定して、`oid` 列タイプではなく `bytea` 列タイプを使用する PostgreSQL スキーマを作成できます。

詳細は、[Springboot での Red Hat Process Automation Manager ビジネスアプリケーションの作成](#)を参照してください。

2.7.3. 自己完結型 Red Hat Process Automation Manager Spring Boot JAR ファイル

同じ KJAR ファイルの複数のバージョンを含む自己完結型 Red Hat Process Automation Manager Spring Boot JAR ファイルを作成することができます。

詳細は、[Springboot での Red Hat Process Automation Manager ビジネスアプリケーションの作成](#)を参照してください。

2.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

2.8.1. Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 4.6 のサポート

Red Hat Process Automation Manager が、Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 4.6 をサポートするようになりました。このバージョンをサポートするために、Operator バンドル形式に必要な変更が行われます。Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 4.6 は、拡張更新サポートを提供します。詳細は、[Red Hat OpenShift Extended Update Support \(EUS\) Overview](#) を参照してください。



重要

Red Hat Process Automation Manager 7.9 は、Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 3.11 および Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 4.6 EUS のみサポートされます。Operator および API バージョンの内部変更により、Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 4.5 はサポートされず、Red Hat ミドルウェア製品の一般的なサポートポリシーは例外となります。詳細は、[Support of Red Hat Middleware products and components on Red Hat OpenShift](#) を参照してください。

2.8.2. LDAP フェイルオーバーのサポート

LDAP 認証を使用する場合、Red Hat OpenShift Container Platform の Red Hat Process Automation Manager は、サーバーが利用できなくなった場合に別の LDAP サーバーへのフェイルオーバーをサポートするようになりました。

詳細は、[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイメント](#) および [テンプレートを使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイメント](#) を参照してください。

2.8.3. 新しいバージョンの製品との統合

Red Hat OpenShift Container Platform の Red Hat Decision Manager は、以下の新規製品バージョンとの統合をサポートするようになりました。

- Red Hat AMQ 7.7
- Red Hat AMQ Broker 7.7
- Red Hat Single Sign-On 7.4.1

- Red Hat Data Grid 7.3

2.8.4. Smart Router イメージのカスタマイズのサポート

Red Hat OpenShift Container Platform の Red Hat Process Automation Manager は、カスタマイズされた Smart Router イメージをサポートするようになりました。Smart Router を拡張して、お使いの環境のニーズに固有のルーティングを提供できます。

詳細は、[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイ](#) を参照してください。

2.8.5. Smart Router のロギングレベル設定

Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Process Automation Manager をデプロイする際に、Smart Router のロギングレベルを設定できるようになりました。

詳細は、[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイ](#) を参照してください。

2.8.6. Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform で管理対象外の KIE Server のデプロイをサポート

Business Central モニタリングで管理されていない KIE Server の Operator を使用して Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Process Automation Manager をデプロイできるようになりました。

詳細は、[Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Process Automation Manager 環境のデプロイ](#) を参照してください。

第3章 サポートおよび互換性

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.9 でサポート対象バージョンに関する更新内容を説明します。

3.1. FIREFOX 78 ESR のサポート

Red Hat Process Automation Manager は Firefox 78 ESR ブラウザーをサポートするようになりました。

3.2. RED HAT DATA GRID 7.3 のサポート

Red Hat Process Automation Manager は Red Hat Data Grid 7.3 をサポートするようになりました。

3.3. AMQ STREAMS 1.5 のサポート

Red Hat Process Automation Manager は AMQ Streams 1.5 をサポートするようになりました。

3.4. RED HAT AMQ 7.7 のサポート

Red Hat Process Automation Manager は Red Hat AMQ 7.7 をサポートするようになりました。

3.5. RED HAT JBOSS EAP での高可用性オーサリング (オンプレミス) のサポート

オンプレミスでの高可用性 (HA) 向けの Red Hat JBoss EAP での Business Central の設定は完全にサポートされています。

Red Hat JBoss EAP のクラスターリング環境で Red Hat Process Automation Manager をインストールして設定する方法は、[Red Hat JBoss EAP クラスター環境での Red Hat Process Automation Manager のインストールおよび設定](#) を参照してください。

3.6. RED HAT JBOSS WEB SERVER のサポート

Red Hat Process Automation Manager は、利用可能な場合は Red Hat JBoss Web Server 5.3.0 (Apache Tomcat 9.0.30) および Red Hat JBoss Web Server 5.4.0 にインストールすることができます。Red Hat JBoss Web Server 5.3 への Red Hat Process Automation Manager のインストールに関する詳細は、[Red Hat JBoss Web Server への Red Hat Process Automation Manager のインストールおよび設定](#) を参照してください。

3.7. RED HAT CODEREADY STUDIO の統合

Red Hat CodeReady Studio 12.17 を Red Hat Process Automation Manager と統合できるようになりました。Red Hat CodeReady Studio 12.17 と Red Hat Process Automation Manager の統合に関する詳細は、[Red Hat JBoss CodeReady Studio と Red Hat Process Automation Manager の統合](#) を参照してください。

3.8. RED HAT FUSE の統合

Red Hat Fuse 7.7 は Red Hat JBoss EAP 7.2 でサポートされていますが、Red Hat Process Automation Manager は Red Hat JBoss EAP 7.3 でサポートされています。デプロイメント環境の安定性を確保する

には、サポートされている Red Hat JBoss EAP バージョンに基づいて、Fuse と Red Hat Process Automation Manager を Red Hat JBoss EAP の別のインスタンスにインストールしてください。詳細は、[Red Hat Process Automation Manager と Red Hat Fuse の統合](#)を参照してください。

第4章 非推奨コンポーネント

本セクションのコンポーネントは非推奨になります。

4.1. レガシーのテストシナリオツール

レガシーのテストシナリオツールは、Red Hat Process Automation Manager 7.3.0 で非推奨になりました。このツールは、今後の Red Hat Process Automation Manager リリースで削除予定です。代わりに、新しいテストシナリオデザイナーを使用してください。

4.2. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3.X のサポート

Red Hat Process Automation Manager バージョン 7.5 以降では、Red Hat OpenShift Container Platform 3.x 向けのイメージとテンプレートが非推奨になりました。非推奨のイメージおよびテンプレートには新機能が追加されませんが、Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 3.x のサポートが終了するまでこれらのイメージとテンプレートは使用できます。Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 3.x の完全なサポートライフサイクルフェーズに関する詳細は、[Red Hat OpenShift Container Platform のライフサイクルポリシー \(最新バージョン以外\)](#) を参照してください。

Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に Red Hat Process Automation Manager 環境をデプロイメントすることを検討してください。

4.3. レガシーのプロセスデザイナー

Business Central のレガシーのプロセスデザイナーは、Red Hat Process Automation Manager 7.6.0 で非推奨になりました。そのため、レガシーのプロセスデザイナーには新しい機能拡張や機能は追加されません。新しいプロセスデザイナーを使用する場合は、お使いのプロセスを新しいデザイナーに移行し始め、新しいプロセスデザイナーですべての新規プロセスを作成してください。プロジェクトの新規デザイナーへの移行に関する詳細は、[Business Central におけるプロジェクトの管理](#) を参照してください。

第5章 テクノロジープレビュー

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.9 のテクノロジープレビュー機能を説明します。Business Central には、デフォルトで無効になっている実験的機能管理ページが含まれています。このページを有効にするには、**appformer.experimental.features** プロパティの値を **true** に設定します。



重要

本章の機能はテクノロジープレビュー機能です。テクノロジープレビュー機能は、Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされておらず、機能的に完全ではない可能性があるため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。これらの機能は、今後の製品機能への早期アクセスを提供することで、お客様が機能をテストし、開発プロセス中にフィードバックを提供できるようにしています。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポートの詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

5.1. ケースモデラー

Business Central のケースモデラーに、新しいプロセスデザイナーが追加されました。このモデラーでは、ケースをステージのシーケンスとしてモデル化するオプションが追加され、ハイレベルでのケースモデルの定義が簡素化されました。ケースモデルは、人間によるタスク、サブプロセス、サブクラスの3種類のタスクをサポートします。

Red Hat Process Automation Manager 7.9 のケースモデラーはテクノロジープレビュー機能で、デフォルトでは Business Central で無効になっています。

ケースモデラープレビューを有効にするには、以下を実行します。

1. Business Central で、画面の右上隅にある **Admin** アイコンを選択して、**Roles** を選択します。
2. 左側のパネルからロールを選択します。
3. **Editors** → **(New)Case Modeler** → **Read** の順にクリックします。
4. **Save** をクリックします。

5.2. PREDICTION SERVICE API

Prediction Service API を使用して、ヒューマンタスクを支援する予測サービスを提供できます。予測サービスは AI を使用できます。たとえば、予測モデルマークアップ言語 (PMML: Predictive Model Markup Language) モデルまたは統計的機械知能と学習エンジン (SMILE: Statistical Machine Intelligence and Learning Engine) を使用してサービスを実装できます。

5.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 4.X への高可用性のオーサリング環境のデプロイ

Operator を使用して Red Hat OpenShift Container Platform 4.x に高可用性の Red Hat Process Automation Manager オーサリング環境をデプロイできます。

5.4. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード

Red Hat Process Automation Manager 向けの OpenShift Operator には、インストーラーウィザードが提供されます。このウィザードを使用して、Operator が含まれる Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Process Automation Manager 環境をデプロイできます。

第6章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.0 で既知の問題

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.9 の既知の問題を紹介します。

6.1. BUSINESS CENTRAL

パッケージリストがインポートされたプロジェクトのデフォルトのパッケージを入力できない [RHPAM-3209]

問題: プロジェクトに多くのパッケージが含まれ、新規アセットを作成しようとする、パッケージの一覧が表示されるのに時間がかかる場合があります。

問題の再現手順:

1. 多くのパッケージを含むプロジェクトをインポートします。
2. プロジェクトページに移動します。
3. **Add Asset** をクリックします。
Assets ウィンドウが表示されます。
4. プロジェクトにアセットを追加します。
5. ポップアップウィンドウで、**Package** ドロップダウンリストを確認します。
しばらくの間、**Nothing selected** オプションが表示されます。

想定される結果: パッケージリストに、インポートされたプロジェクトのデフォルトのパッケージが入力されます。

実際の結果: パッケージリストに、インポートされたプロジェクトのデフォルトのパッケージが入力されません。

回避策:

- **src/java** と **src/resources** の両方に同じパスがあることを確認してください。Git リポジトリで **.gitkeep** ファイルを挿入し、空のフォルダー構造を維持します。
- アセットのポップアップウィンドウで、**Package** ドロップダウンリストで **<default>** オプションを手動で選択します。

DRL ベースのテストシナリオではコレクションエディターが開かない [RHDM-1464]

問題: DRL ベースのテストシナリオは、一部のデータタイプの一覧のコレクションエディターを開くと予期せぬエラーを出力します。

回避策: なし

初めてコンテナを作成するとデプロイメントユニットを追加できない [RHPAM-3254]

問題: コンテナを初めて作成するときにデプロイメントユニットを追加できず、予期しないシステムエラーが発生します。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Deploy → Execution Servers** に移動します。

2. **Deployment Units** の下で **Add Deployment Unit** をクリックします。
3. GAV 値を手動で入力します。
4. **Start Deployment Unit?** チェックボックスを選択してサービスを起動します。
5. **Finish** をクリックします。
予期しないシステムエラーが発生します。

回避策: なし

子プロセスインスタンスから親プロセスインスタンスに移動できない [RHPAM-3227]

問題: 子プロセスインスタンスから親プロセスインスタンスに移動できませんが、親プロセスインスタンスから子プロセスインスタンスに移動できます。

問題の再現手順:

1. Business Central で、親プロセスと子プロセス関係を作成します。
2. プロセスインスタンスを開始して、アクティブにします。
3. 子プロセスインスタンスから親プロセスインスタンスに移動できないことに注意してください。

想定される結果: アクティブなプロセスインスタンスがある場合は、子プロセスインスタンスから親プロセスインスタンス、またはその逆へ移動するリンクが必要です。

実際の結果: 子プロセスインスタンスから親プロセスインスタンスに移動できません。

回避策: なし

新しいデプロイメントユニットを追加するとデプロイメントユニットフィールドがない [RHPAM-3213]

問題: デプロイメントユニットを追加する場合は、**Add Deployment Unit** で利用可能なフィールドがありません。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu** → **Deploy** → **Execution Servers** に移動します。
2. **Deployment Units** の下で **Add Deployment Unit** をクリックします。
デプロイメントユニットフィールドがありません。

回避策: Deployment unit フィールドは、**Process Configuration** に移動して元に戻る場合にのみ表示されます。

6.2. フォームモデラー

生成された形式で DocumentCollection の出力パラメーターが機能しない [RHPAM-3252]

問題: ドキュメントが出力変数としてのみ設定される場合 (たとえば、ドキュメントがユーザータスクの一部としてアップロードされる) 場合は、**DocumentCollection** タイプの入力パラメーターが存在しないため、デフォルト値 "" (空文字列) が **DocumentCollection** に送信され、例外が発生します。

問題の再現手順:

1. [RHPAM-3252](#) の問題にアタッチされたプロジェクトをデプロイします。
2. 新規プロセスインスタンスを作成します。
3. 以下のエンドポイント URL を入力します。

```
http://<host>:<port>/kie-server/services/rest/server/containers/{containerId}/forms/tasks/{taskInstanceId}/content\
```

例外が表示されます。

回避策: なし

6.3. プロセスデザイナー

プロセスを保存すると、割り当て内のデータオブジェクトが消える [[RHPAM-3212](#)]

問題: プロセスを保存すると、Assignments に存在するデータオブジェクトが消えます。

問題の再現手順:

1. データオブジェクトを作成します。
2. ユーザータスクを作成します。
3. 画面の右上にある **Properties** アイコンをクリックして、**Properties** パネルを開きます。
4. **Implementation/Execution** を展開し、**Assignments** を選択して、**Data I/O** ウィンドウを開きます。
5. **Data Inputs and Assignments** の横の **Add** をクリックして、**Source** 値を選択します。
6. **Data Outputs and Assignments** の横の **Add** をクリックし、**Target** の値を選択します。
7. **Assignments** を閉じ、プロセスを保存します。
8. **Assignments** サブセクションを開きます。

想定される結果: **Source** フィールドおよび **Target** フィールドが空です。

実際の結果: **Source** フィールドおよび **Target** フィールドがデータオブジェクトに設定されます。

回避策: タスクの選択を解除してから、タスクを再度選択します。

ビジネスルールタスクのプロパティに、新しいルールフローグループが反映されない [[RHPAM-3195](#)]

問題: 新しいルールフローグループを作成すると、その変更はビジネスルールタスクのプロパティに反映されません。

問題の再現手順:

1. ビジネスプロセスを作成します。
プロセスを閉じないでください。
2. **testgroup** を含む **testrule.rdr1** ファイルを **ruleflow-group** として作成します。

3. 作成したプロセスで **Business Rule** を選択します。
4. **Implementation/Execution** を展開して、**Rule Flow Group** ドロップダウンリストを選択します。

想定される結果: **Rule Flow Group** ドロップダウンリストに、DRL ファイルに指定した `ruleflow-group` が含まれます。たとえば **testgroup** です。

実際の結果: **Rule flow Group** ドロップダウンリストに何も表示されません。

回避策: ビジネスルールタスクの選択を解除してから、再度ビジネスルールタスクを選択します。

ビジネスルールタスクのプロパティにルールフローグループが反映されない [RHPAM-3194]

問題: ルールフローグループを編集しても、その変更がビジネスルールタスクのプロパティに反映されません。

問題の再現手順:

1. ビジネスプロセスを作成します。
プロセスを閉じないでください。
2. **testgroup** を含む **testrule.rdr1** ファイルを `ruleflow-group` として作成します。
3. **testrule.rdr1** ファイルを開き、**testgroup** を **testgroup-renamed** に変更します。
4. 変更を保存します。
5. 作成したプロセスで **Business Rule** を選択します。
6. **Implementation/Execution** を展開して、**Rule Flow Group** ドロップダウンリストを選択します。

想定される結果: **Rule Flow Group** ドロップダウンリストに、編集された **testgroup-renamed** 値が含まれます。

実際の結果: **Rule Flow Group** ドロップダウンリストに **testgroup** 値が含まれます。

回避策: ビジネスルールタスクの選択を解除してから、再度ビジネスルールタスクを選択します。

インラインテキストエディターを使用すると、Firefox ブラウザーでカーソル位置が異なる [RHPAM-3171]

問題: インラインテキストエディターを使用すると、Google Chrome ブラウザーと Kogito VSCode 拡張と比べ、Firefox ブラウザーでカーソル位置が異なります。

再現手順: Firefox および Google Chrome の両ブラウザを使用して以下の手順を実行します。

1. 任意のノードを作成します。
2. ノードをダブルクリックしてインラインテキストエディターを有効にします。

期待される結果: Google Chrome ブラウザーとの比較で、Firefox ブラウザーのカーソルが同じ場所にあります。

実際の結果: カーソルは、Google Chrome ブラウザーと比較して Firefox ブラウザーの異なる位置にあります。

回避策: なし

インラインテキストエディターを使用してテキストを編集するが、Properties パネルまたは拡張パレットの上に表示される [RHPAM-3172]

問題: Properties パネルにタスク、サブプロセス、またはテキストアノテーションを配置し、インラインテキストエディターを使用して名前の編集を開始すると、Properties パネルでテキストが表示されません。

問題の再現手順:

1. 任意のノードを作成します。
2. Properties パネルが開き、ツールパレットが展開されていることを確認します。
3. ノードをクリックする方法で、Properties パネルまたはツールパレットの拡張領域の下で、ノードを移動します。
4. ノードをダブルクリックしてインラインテキストエディターを有効にします。
5. テキストを入力します。

想定される結果: ノードは編集できないが、Properties パネルまたはツールパレットの横にテキストが表示され、完全に表示されます。

実際の結果: テキストが Properties パネルに表示されます。

回避策: なし

ケース管理 (プレビュー) アセットを作成または開くことができない [RHPAM-3281]

問題: Case Management (プレビュー) アセットを作成または開いていると、ランタイム例外が発生しません。

問題の再現手順:

1. ケースプロジェクトを作成します。
2. ケース管理 (プレビュー) アセットを作成します。

想定される結果: ケース管理 (プレビュー) アセットを正常に作成または開くことができます。

実際の結果: ケース管理 (プレビュー) アセットを作成または開くと、ランタイム例外を受け取ります。

回避策: なし

すべての不正な文字がデータオブジェクト名から削除されない [RHPAM-3250]

問題: 使用できない文字が含まれる名前でデータオブジェクトを作成すると、保存、閉じる、および保存した後に警告メッセージが表示されます。

問題の再現手順:

1. `~!@#%$^&*()_+`10-={ }[]:|";\<>?.,/°l'sčřžýáíéúä!ôšň` の名前でデータオブジェクトを作成します。
2. プロセスを保存して閉じ、再度開きます。
3. ノードに移動して、プロセスを再度保存します。

想定される結果: プロセスを保存し、再度開くと、無効な文字がすべて削除されます。

実際の結果: 警告メッセージが表示されます。

回避策: なし

カーソルがスクリプト領域にあると、Properties パネルのスクロールが停止する [RHPAM-3208]

問題: カーソルがスクリプト領域にあると、Properties パネルのスクロールが停止します。

問題の再現手順:

1. ユーザータスクを作成します。
2. Implementation/Execution セクションを展開します。
3. スクロールダウンし、停止するまでスクロールします。

想定される結果: スクロールバーがページの下部にあると停止します。

実際の結果: カーソルが On Entry Action フィールドの上に置かれると、スクロールの動作が停止します。

回避策: カーソルがテキスト領域外にある場合は、メインのスクロールバーが常にアクティブになります。

スクリプトタスクに使用するテキスト領域が切り離されて移動する [RHPAM-3207]

問題: コードを何行も入力すると、スクリプトタスクに使用されるテキスト領域が切り取られて移動します。また、垂直スクロールバーも移動します。

問題の再現手順:

1. スクリプトタスクを作成します。
2. Implementation/Execution セクションを展開します。
3. Script テキスト領域に、多数のコード行を入力します。

想定される結果: スクリプトタスクに使用するテキスト領域は影響を受けず、移動しません。

実際の結果: スクリプトタスクに使用するテキスト領域は切り離され、移動します。

回避策: なし

インラインテキストエディターがアクティブになっても、プロパティーがすぐにアクティブにならない [RHPAM-3198]

問題: インラインエディターがアクティブになっても、Properties パネルでプロパティーがすぐにアクティブになりません。

問題の再現手順:

1. 任意のノードを作成します。
2. Properties パネルが開いていることを確認します。
3. ノードをダブルクリックして、インラインテキストエディターをアクティブにします。

4. Properties パネルから任意のプロパティをクリックします。

想定される結果: インラインテキストエディターがアクティブな場合にプロパティを編集できます。

実際の結果: インラインテキストエディターがアクティブな場合にプロパティを編集できません。

回避策: 手順に従い、プロパティを再度クリックします。

ノードが左側のキャンバスの境界線付近にあると、インラインテキストエディターを使用できない [RHPAM-3167]

問題: ノードが左のキャンバスの境界線上にある場合に、インラインテキストエディターが使用できません。この問題は、イベント、ゲートウェイ、およびデータオブジェクトに該当します。

問題の再現手順:

1. 任意のノードを作成します。
2. 左のキャンバスの境界線上に置きます。
3. ノードをダブルクリックします。

想定される結果: インラインテキストエディターがアクティブで、ノード名を編集できます。

実際の結果: インラインテキストエディターがアクティブではないため、ノード名を編集できません。

回避策: なし

インラインテキストエディターを使用する場合は編集したノードが表示される [RHPAM-3166]

問題: インラインテキストエディターを使用すると、編集したノードが表示されます。

問題の再現手順:

1. 埋め込みサブプロセスを作成します。
2. サブプロセスの名前を長いテキストに変更します。たとえば、300 文字を超える場合などです。
3. サブプロセス内にノードを作成し、サブプロセスのテキストに配置します。
4. インラインテキストエディターを使用してノード名を編集します。

想定される結果: テキストは読み取り可能で、編集したノードが表示されません。

実際の結果: 編集したノードが読み取り可能ではないため、テキストが読み込めません。

回避策: なし

6.4. プロセスエンジン

ユーザータスクの SLA を実行すると、No session found for context エラーが表示される [RHPAM-3233]

問題: ユーザータスクのサービスレベルアグリーメント (SLA) が **PER_PROCESS_INSTANCE** ランタイムストラテジーのコンテナで実行すると、**No session found for context** エラーが表示されます。

問題の再現手順:

1. `droolsjbpm-integration` プロジェクトのクローンを作成します。
2. クローンプロジェクトから `SLAComplianceIntegrationTest.java` ファイルを開きます。
3. `testSLAonUserTaskViolated()` 以外のすべてのテストをコメントアウトします。
4. `kie-server-integ-tests-jbpm/` ディレクトリーで端末を開き、以下のコマンドを使用してテストを実行します。

```
mvn clean install -Pwildfly -Dit.test=SLAComplianceIntegrationTest
```

5. 端末のログを確認します。
テストの実行が開始すると、**No session found for context** エラーが表示されます。

6.5. DMN デザイナー

デシジョンサービスに複数の DRD があるモデルの `inputData` 要素がない [RHDM-1483]

問題: 複数のデシジョン要件ダイアグラム (DRD) を含むモデルでデシジョンサービスノードにデシジョンコンポーネントを追加すると、生成されるデシジョンサービスノードに `inputData` 要素がありません。

問題の再現手順:

1. 複数の意思決定要件ダイアグラム (DRD) を定義します。
2. DRD で、入力で一部のデシジョンを定義します。
3. 別の DRD では、デシジョンサービスを定義して、以前の DRD のデシジョンコンポーネントを再使用します。
入力は複製しないでください。
4. デシジョンサービスを構築してデプロイします。
5. 次のタスクのいずれかを実行します。
 - 説明に報告されたエラーを確認するには、意思決定を評価します。
 - DMN ソースを確認し、デシジョンサービスに `inputData` 要素がないことを確認します。

回避策: 生成された `decisionService` 要素に `inputData` 要素を手動で追加します。

DMN エディターが Decision Navigator ビューから変更を検出しない [RHDM-1482]

問題: Decision Navigator ビューからデシジョン要件ダイアグラム (DRD) を名前変更または削除しても、DMN エディターはファイルの変更を検出しません。

問題の再現手順:

1. Decision Navigator ビューから DRD の名前を変更します。
2. **Save** をクリックします。
保存されていない変更 のアラートウィンドウを受け取ります。
3. DMN エディターを閉じます。
保存されていない変更 のアラートウィンドウを受け取ります。

4. DMN エディターを再度開きます。
DRD の名前は同じです。

回避策: ファイルに別の変更を加え、保存または破棄アクションを強制します。

デシジョンテーブルで制約値がない [RHDM-1460]

問題: デシジョンテーブルの定義中に制約の値がありません。

問題の再現手順:

1. 意思決定で DMN ファイルを作成します。
2. デシジョンテーブルを定義します。
3. 最初の列タイプを数字に設定します。
4. アセットを保存します。
5. エディターを終了します。
6. アセットを再度開きます。
7. デシジョンテーブルに移動します。
8. タイプを数値として入力を選択します。
9. **Properties** パネルを開きます。
10. **Constraint value** フィールドに制約を設定します。
11. 出力列を選択します。
12. もう一度入力列を選択します。
13. 制約値がないことを確認します。

回避策: なし

意思決定要件グラフ (DRG) でノードを削除すると、元に戻す操作とやり直す操作が正しく機能しない [RHDM-1459]

問題: 複数の意思決定要件ダイアグラム (DRD) を含むモデルでは、意思決定要件グラフ (DRG) でノードを削除すると、元に戻す操作とやり直す操作が正しく機能しません。

問題の再現手順:

1. ノードを DRD に移動します。
2. DRG に移動します。
3. DRG からノードを削除します。
4. 変更を元に戻します。

想定される結果: DRG で元に戻す操作およびやり直す操作を実行できます。

実際の結果: エラーが表示されます。確認すると、DRG は破損しています。

回避策: なし

ダイアグラム間の切り替え時に元に戻す操作とやり直す操作が失われる [RHDM-1458]

問題: 複数の意思決定要件ダイアグラム (DRD) を含むモデルでは、ダイアグラム間の切り替え時に元に戻す操作とやり直す操作が失われます。

問題の再現手順:

1. 2つ以上の意思決定要件ダイアグラム (DRD) を持つ DMN ファイルを開きます。
2. 変更を加えます。たとえば、1つの図でノードを移動します。
3. 別のダイアグラムに切り替えます。
4. **Undo** をクリックするか、**Ctrl+Z** を押します。
元に戻す操作ややり直す操作が失われ、何も変更されません。

回避策: なし

Business Central では、DMN エディターは Properties パネルに変更を保存できない [RHDM-1456]

問題: **Properties** パネルで name プロパティを変更し、変更を保存してエディターを再度開くと、DMN エディターで変更を保存できません。

問題の再現手順:

1. DMN ファイルを開きます。
2. **Properties** パネルで DMN ファイルの名前を変更します。
3. **Save** をクリックします。
保存されていない変更 のアラートウィンドウを受け取ります。
4. DMN エディターを閉じます。
5. アセットを再度開き、**Properties** パネルを確認します。
変更が保存されません。

回避策: なし

変更がない場合に DMN エディターで保存されていない変更を報告する [RHDM-1453]

問題: Business Central で DMN ファイルを開き、変更を加えずにファイルを閉じると、DMN エディターが DMN ファイルに未保存の変更を報告します。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Design → Projects** に移動します。
2. **Try samples** をクリックします。
3. **Traffic_Violation** プロジェクトを開きます。
4. DMN ファイル **Traffic Violation** を開きます。
5. エディターを終了します。

Unsaved changes エラーポップアップが表示されます。

回避策: なし

6.6. デシジョンエンジン

TypeCoercionTest の jitting の後に testDoubleNaN が失敗する [RHDM-1470]

問題: 制約が jitting の場合に、`org.drools.modelcompiler.TypeCoercionTest#testDoubleNaN` に `AssertionError` エラーが表示されます。

問題の再現手順:

1. `org.drools.modelcompiler` モジュールで以下のコマンドを実行します。

```
mvn clean install -Dtest=org.drools.modelcompiler.TypeCoercionTest#testDoubleNaN* -Ddrools.jittingThreshold=0
```

回避策: なし。

6.7. 高可用性 BUSINESS CENTRAL (オンプレミス)

複数のプロセスを同時に作成できない [RHPAM-3202]

問題: 複数のプロセスを同時に作成すると、エラーメッセージが表示され、複数のプロセスが作成されません。

問題の再現手順:

1. 同時に複数のプロセスを作成します。
`Activity not found` エラーが表示されます。

回避策: なし

プロジェクトの作成時に、プロジェクトの実際の名前ではなく base-kie-project が作成される [RHPAM-3193]

問題: プロジェクトを作成すると、作成されたプロジェクトの実際の名前ではなく、`base-kie-project` という名前のプロジェクトが作成されます。

問題の再現手順:

1. 同じスペースに複数のユーザーを持つ複数のプロジェクトを作成します。
`base-kie-project` プロジェクトが作成されます。

回避策: プロジェクトを削除して再作成するか、**Settings** タブからプロジェクト名の名前を変更します。

複数のプロジェクトを同時に作成できない [RHPAM-3192]

問題: 複数のプロジェクトを同時に作成すると、エラーメッセージが表示され、複数のプロジェクトが作成されません。

問題の再現手順:

1. 同時に複数のプロジェクトを作成します。

エラーが表示されます。

回避策: なし

第7章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.0 で修正された問題

Red Hat Process Automation Manager 7.9.1 の安定性が増し、本セクションに挙げる問題が修正されました。

7.1. BUSINESS CENTRAL

- ソースコードからパッケージの名前を変更しようとするファイルが保存できない [RHPAM-3119]
- デプロイメントユニットを追加して、手作業で GAV 値を入力し、警告ウィンドウを確認すると、待ち時間を表すスピナーが表示されない [RHPAM-3114]
- アセットが Business Central のクラスター環境向けに正しくインデックス化されない [RHPAM-3089]
- 新しいデプロイメントユニットを追加しようとする、複数のエラー通知が表示される [RHPAM-3112]
- Business Central はログアウト時に最後に使用したブランチを記憶しない [RHPAM-2957]
- **Assets** リストには、**Last modified X day ago** と **Created XX weeks ago** という列がありますが、すべてのアセットで同じで、実際に修正または作成された値を反映しない [RHPAM-2865]
- パッケージリストがインポートされたプロジェクトに対して正しく入力されない [RHDM-1377]
- **java.lang.Number** インポートが削除時にインポートのリストに残る [RHDM-247]
- プロジェクトでクエリーが含まれる DRL ファイルが含まれる場合は、テストシナリオデザイナーがカバレッジレポートにクエリーを表示する [RHDM-1448]
- Business Central を再起動すると、KIE Server と Business Central の接続が再確立されない [RHPAM-3137]
- Business Central でガイド付きデシジョンテーブルアセットをロックできない [RHPAM-2992]
- テストシナリオで使用するガイド付きルールの名前を変更すると、カバレッジレポートに、ガイド付きルールの元の値と名前が変更された値の両方が表示される [RHDM-1334]
- dashbuilder ランタイムで KIE Server 設定が欠落しているというエラーメッセージを改善する必要がある [RHPAM-3058]
- プロセスリストから親プロセスインスタンスの詳細を削除すると、エラーメッセージが表示される [RHPAM-3102]
- タスクイベントリスナーからタスクを省略すると、**BAMTaskEventListener** の警告が表示される [RHPAM-3100]
- メモリーの保持が大きいのを回避するには、**LRUCache** ファイルを設定可能にする [RHPAM-2808]
- 複数の KIE Server が異なる ID に接続されていると、予期しないシステムエラーが発生する [RHPAM-3134]

7.2. プロセスデザイナー

- ケース定義にケース管理プロパティがない [RHPAM-3131]
- ユーザータスクの通知の件名に ^ 文字を使用するとエラーが発生する [RHPAM-2763]
- 再利用可能なサブプロセスに呼び出した要素が生成されない [RHPAM-2760]
- ルールフローグループが生成されない [RHPAM-2740]
- レガシーのプロセスデザイナーから新しいプロセスデザイナーにプロセスを移行すると、ノードが無視されるという誤った警告が表示される [RHPAM-2452]
- プロセスモデラーで、**Service Tasks** 名が **Custom Tasks** に変更になる [RHPAM-3008]
- うるう日がタイマーイベントで検証されない [RHPAM-2987]
- イベントサブプロセスを使用して **catch-all** エラーを実装し、エラー開始イベントの **ErrorRef** の値が空であると、ビルドエラーが発生する [RHPAM-3093]

7.3. プロセスエンジン

- インターフェイスを実装すると `EventEmitter` がメソッドの実行に失敗する [RHPAM-3126]
- Red Hat Process Automation Manager を 7.7.0 から 7.8.0 にアップグレードすると、**`userTaskService.saveContent`** が機能しない [RHPAM-3123]
- 同じリンク名で複数のソース (ブラウザーリンクイベント) でプロセスを実行でき、サブプロセスレベルで同じリンク名に1つの Target (catch リンクイベント) のみを使用できる [RHPAM-3132]
- **JBPMAutoConfiguration** で **`entityManagerFactory`** が失敗しないように jBPM データソースを **@Primary** として定義する [RHPAM-3072]
- REST API では、**required** 変数タグが付けられたビジネスプロセスを許可できない [RHPAM-3048]
- トランザクションのロールバックを処理するサブプロセスの例外処理が原因で、主なプロセスに失敗する [RHPAM-2982]
- 新規ノードをプロセスインスタンスに動的に追加すると、ランタイム例外でプロセスの実行に失敗する [RHPAM-3188]

7.4. デシジョンエンジン

- デシジョンテーブルでは、パターンが反応するプロパティをカスタマイズするために使用される **@watch** アノテーションを使用してパターンを終了できる [RHDM-1437]
- プロパティを1つだけ残してプロパティをすべて除外すると、**@watch** アノテーションが正しく動作しない [RHDM-1436]
- マップから文字列の値を取得し文字列リテラルと比較すると、制約の jitting に失敗する [RHDM-1439]
- **accumulate** に複数の累積関数が含まれる場合は、デシリアライズ後に不要なルールの再入力を受け取る [RHDM-1434]

- **kie-maven-plugin** の default-build ターゲットでルールを構築するのに時間がかかる [[RHDM-1433](#)]
- MVEL 方言モードでは、**BigDecimal** タイプの値のバイナリー操作をコンパイルできず、実行可能モデルでコンパイルエラーが発生する [[RHDM-1421](#)]

7.5. KIE SERVER

- KIE Server で REST 要求 (JSON) アンマーシャリング時に `MarshallingException` が発生する [[RHDM-1417](#)]

7.6. インストーラー

- Red Hat JBoss EAP 上の Red Hat Process Automation Manager インストーラーでは、データベースユーザーの保存パスワードに \$ 記号が追加される [[RHPAM-3148](#)]

7.7. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- 監視コンソールページに新しいページを作成すると **Activity not found** エラーのポップアップが表示される [[RHPAM-3066](#)]
- 外部 Red Hat Single Sign-On 設定を設定しようとする、**SSL required for: EXTERNAL** エラーメッセージが表示される [[RHPAM-2804](#)]
- **is-same-rm-override** フィールドで **xa-pool** 設定のサポートがない [[RHPAM-3071](#)]
- Red Hat OpenShift Container Platform で Business Central と KIE Server との間でセキュアな接続を作成すると、間違った URL が生成される [[RHPAM-3162](#)]

第8章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.1 で既知の問題

本セクションでは、Red Hat Process Automation Manager 7.9.1 の既知の問題を紹介します。

8.1. BUSINESS CENTRAL

テストの実行が増分ビルドに影響する [RHDM-1508]

問題: テストシナリオシミュレーションで DRL ルールおよび enum プロパティーを含むファクトをテストすると、検証エラーが発生します。

問題の再現手順:

1. [DROOLS-5458] にある **bpm_scesim-tickets.zip** ファイルをダウンロードします。
2. プロジェクトをインポートします。
3. DRL ファイルに移動し、検証を実行します。
4. テストシナリオシミュレーションに移動し、検証を実行します。
5. DRL ファイルに戻り、再度検証を実行します。
検証に失敗し、エラーが表示されます。
6. テストシナリオシミュレーションに戻り、再度検証を実行します。
ルールが指定のファクトに対して評価されなていないため、検証に失敗します。

回避策: インポートしたプロジェクトページに移動して、**Build** をクリックします。

デプロイメントユニットを追加するとシステムエラーが発生する [RHPAM-3111]

問題: デプロイメントユニットを追加できず、予期しないシステムエラーが発生します。

問題の再現手順:

1. Business Central で **Menu → Deploy → Execution Servers** に移動します。
2. **Deployment Units** の下で **Add Deployment Unit** をクリックします。
3. GAV 値を手動で入力します。
4. **Start Deployment Unit?** チェックボックスを選択してサービスを起動します。
5. **Finish** をクリックします。
予期しないシステムエラーが発生します。

回避策: なし

第9章 RED HAT PROCESS AUTOMATION MANAGER 7.9.1 で修正された問題

Red Hat Process Automation Manager 7.9.1 の安定性が増し、本セクションに挙げる問題が修正されました。

9.1. BUSINESS CENTRAL

- 初めてコンテナを作成するときデプロイメントユニットを追加できない [RHPAM-3254]
- Business Central でテストの実行速度が遅い [RHPAM-3246]
- ガイド付きルールエディターから Free form DRL が消える [RHPAM-3204]
- Red Hat Single Sign-On アプリケーションで定義した予約ロールが、Business Central の admin ページでロールおよびグループとして表示される [RHPAM-2984]
- ガイド付きルールエディターで、呼び出しメソッドアクションの引数として引用符を含む式を使用できない [RHPAM-2972]
- 保存した変更でアセットの名前を変更すると、エラーが発生する [RHPAM-2946]
- ガイド付きルールエディターで **LocalDateTime** フィールドを使用して比較を行うと、**LocalDateTime** フィールドを表すバインディング変数が = 文字で始まり、ルールを検証できない [RHDM-1408]
- Git プロジェクトをインポートして新規ブランチを作成し、リモートリポジトリにプッシュすると、新たに作成したブランチが Business Central に表示されない [RHDM-1407]
- 空のリポジトリをインポートして最初に作成されたリポジトリを再インポートすると、空のプロジェクトが作成される [RHDM-1378]
- 指定した **messages.properties** ファイルと post-commits で REST API を使用してプロジェクトを作成できない [RHDM-1354]
- 新しいデプロイメントユニットを追加するとデプロイメントユニットフィールドがない [RHPAM-3213]
- 子プロセスインスタンスから親プロセスインスタンスに移動できない [RHPAM-3227]
- 円グラフを作成する場合、Page で整数値を持つ列が含まれるデータセットを使用するとエラーが発生する [RHPAM-2867]

9.2. KIE SERVER

- **/server/state** REST エンドポイントがクリアテキストで KIE Server ユーザーとコントローラーユーザーを出力する [RHPAM-3260]
- KIE Server Swagger API にモデル定義が存在しない [RHPAM-3219]
- ワークフローの実行時にノードの1つが起動またはシャットダウンしている場合にタイマー付きのプロセスを中断する [RHPAM-3186]
- Web サービス呼び出しの作成を試みると、クラスが生成されず、エラーが発生する [RHPAM-3106]

- 高可用性 (HA) オンプレミス環境で KIE Server が Business Central に接続されると、同期の問題が発生する [RHPAM-2965]

9.3. プロセスエンジン

- ユーザータスクの SLA を実行すると、**No session found for context** エラーが表示される [RHPAM-3233]
- `correlationKey` を使用してプロセスインスタンスにシグナルを送る API メソッドを提供 [RHPAM-3269]
- イベントサブプロセスのタスクが **Is Async** でマークされ、**true** に設定されていると、ネストされたプロセスインスタンスを中断できない [RHPAM-3261]
- **TaskLifeCycleEventListener** の **afterTaskAddedEvent** メソッドでタスクをスキップすると、**IllegalArgumentException** 例外を受け取る [RHPAM-3247]

9.4. プロセスデザイナー

- ヒューマンタスクの再割り当てに失敗し、処理中に予期しないエラーが発生する [RHPAM-3244]
- **Case Modeler** (テクニカルプレビュー) アセットタイプが削除される [RHPAM-3229]

9.5. デシジョンエンジン

- 実行可能なモデルコンパイラーで、括弧内の数字を使用してルールを実行すると、コンパイルエラーが表示され、例外で失敗する [RHDM-1491]
- 実行可能モデルでの不正確なルール実行 [RHDM-1465]
- 実行可能なモデルコンパイラーで変数を括弧内で使用し、**int** を **short** 変数にキャストすると、コンパイルエラーが発生する [RHDM-1471]
- バージョン 7.8.0 にアップグレードすると、KieBase ビルドが失敗し、**org.apache.poi.ooxml.POIXMLException** 例外が発生する [RHDM-1468]
- 制約的に複数のプロパティがある場合、**STANDARD_DRL** プロパティが式内で複数のプロパティを認識できない [RHDM-1462]

9.6. DMN デザイナー

- デシジョンテーブルで制約値がない [RHDM-1460]
- 意思決定要件グラフ (DRG) でノードを削除すると、元に戻す操作とやり直す操作が正しく機能しない [RHDM-1459]
- Business Central では、DMN エディターは Properties パネルに変更を保存できない [RHDM-1456]
- 変更がない場合に DMN エディターで保存されていない変更を報告する [RHDM-1453]

9.7. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER

- 新たに追加された参照実装を使用することで、Spring Boot と Red Hat Business Optimizer を使用して時間割を作成できます。手順は、[Spring boot との Red Hat Business Optimizer の使用](#)を参照してください。[RHDM-1430]

9.8. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- Red Hat OpenShift Container Platform では、EJB タイマー関連の設定を追加して、タイマーの実行が重複しないようにする [RHPAM-3300]
- Business Central および KIE Server のリソース要件を変更する [RHPAM-3245]
- Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Process Automation Manager をデプロイする場合に、Git インデックスのディレクトリーで、**org.uberfire.metadata.index.dir** Java 設定が共有の PersistentVolume (PV) を参照しない [RHPAM-3141]

付録A バージョン情報

本書の最終更新日: 2022 年 3 月 8 日 (火)

付録B お問い合わせ先

Red Hat Process Automation Manager のドキュメントチーム: brms-docs@redhat.com